



スポット  
ニュース

## 深度500m ステージの状況

【瑞浪超深地層研究所イメージ図】

瑞浪超深地層研究所では、本年2月4日に深度500mステージにおける水平坑道の掘削工事が終了しました。現在、深度500mの床舗装などの整備作業を進めており、今年度は深度500mでの調査研究に向けた準備を進めていきます。



深度500mステージ



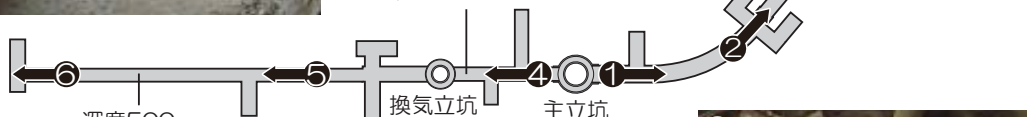
深度500m予備ステージ



深度500m  
研究アクセス北坑道



深度500m  
研究アクセス南坑道



【深度500mステージの平面図】



## 6月の主な作業予定

### 【瑞浪超深地層研究所】

- ① 研究坑道内における傾斜計を用いた岩盤の変位計測、重力計測及び応力計測(東濃地科学研究所との研究協力)
- ② 研究坑道内におけるニュートリノ捕捉用原子核乾板の保管(名古屋大学への施設貸与)
- ③ 表層水理定数観測(気象・地下水位・土壌水分の観測)
- ④ 狭間川における流量観測及び研究所周辺井戸での水位観測
- ⑤ 研究坑道の掘削土及び排水等の環境管理測定
- ⑥ 研究坑道の湧水に含まれるふっ素、ほう素を排水処理設備で除去後に排水

### ＜ボーリング孔を用いた地下水の観測＞

地下水の水圧・水質観測	地下水の水圧観測
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地表(6孔)</li> <li>◆ 深度200m,300m,400m予備ステージ(各1孔)</li> <li>◆ 深度300m研究アクセス坑道(2孔) (電力中央研究所との共同研究)</li> <li>◆ 深度300mボーリング横坑(換気立坑側2孔) (電力中央研究所との共同研究)</li> <li>◆ 深度300m研究アクセス坑道(1孔) (産業技術総合研究所との共同研究)</li> <li>◆ 深度500m研究アクセス北坑道(1孔)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 深度200mボーリング横坑 (主立坑側1孔、換気立坑側1孔)</li> <li>◆ 深度300mボーリング横坑 (換気立坑側3孔)</li> <li>◆ 深度300m研究アクセス坑道(1孔)</li> <li>◆ 深度500m研究アクセス南坑道(1孔)</li> </ul>

### 【正馬様用地】

- ① 地表からのボーリング孔(5孔)を用いた地下水の水圧・水質観測
- ② 表層水理定数観測(河川流量・気象・地下水位・土壌水分の観測)

## 瑞浪超深地層研究所の地下を体験しよう!

瑞浪超深地層研究所では、地下深部を体験できる施設見学会を開催します。参加をご希望の方は事前申込が必要となりますので、6月23日(月)までに住所、氏名、電話番号を左記の連絡先までお知らせください。また、申込み多数の場合は締切り前に受付を終了させていただくこともあります。なお、当施設見学会は毎月開催する予定です。

【日 時】平成26年6月28日(土) 9:30~11:30

【内 容】深度300mステージ

【対 象】小学校4年生以上

工事現場での安全の確保のため、小学生の方は4年生以上で保護者同伴をお願いします。また入坑の際は、安全装備(つなぎ服・反射ベスト・ヘルメット・安全長靴・軍手・坑内PHSなど)を着用して頂きます。工事現場ですので、狭くて急な階段等もあります。階段の昇降等が困難な方など自立歩行に支障のある方や高所、閉所恐怖症の方などは研究坑道に入坑できない場合がありますので、事前にご確認をお願いいたします。



施設見学会(深度300mステージ)

＜地層研ニュースに関するご意見・ご要望および施設見学会の連絡先＞

【連絡先：東濃地科学センター 総務・共生課 まで】

☎ 0572-66-2244 (代表)

☎ 0572-68-7717

✉ tono-ck@jaea.go.jp (ご意見・ご要望)

✉ tono-kengaku@jaea.go.jp (施設見学会)



《東濃地科学センターHP》



# 「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書」第2条に基づく排水水等の測定結果（平成26年4月分）

【採取日：排水水、河川水、湧水（平成26年4月3日）】

測定項目	管理目標値	工事排水水	狭間川下流
水素イオン濃度	6.5～8.5	7.0	7.6
浮遊物質量	25以下	1未満	2
カドミウム	0.01以下	0.001未満	0.001未満
全シアン	検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	ND(0.1未満)※8
有機燐化合物	検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	
有機燐			
鉛	0.01以下	0.005未満	0.005未満
六価クロム	0.05以下	0.04未満	0.04未満
砒素	0.01以下	0.005未満	0.005未満
総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
PCB	検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
トリクロロフル	0.03以下	0.002未満	0.002未満
テトラクロロフル	0.01以下	0.0005未満	0.0005未満
四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
ジクロロメチ	0.02以下	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロメチ	0.004以下	0.0004未満	0.0004未満
1,1,1-トリクロロフル	1以下	0.0005未満	0.0005未満
1,1,2-トリクロロフル	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
1,1-ジクロロフル	0.02以下	0.002未満	0.002未満
ジ-1,2-ジクロロフル	0.04以下	0.004未満	0.004未満
1,3-ジクロロベン	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
シマジ	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	0.01以下	0.001未満	0.001未満
セレン	0.01以下	0.002未満	0.002未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	0.25	0.33
ふっ素	0.8以下	0.3	0.1
ほう素	1以下	0.46	0.20
塩化物イオン			
アミン、アモル化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	—	0.25	

※1 河川水や湧水は、環境基本法に定められた基準を参考値として自主管理を行っています。また、測定結果については、放流先河川の状態の把握や排水処理設備の運転の参考としています。  
 ※2 立坑の湧水の値は、排水処理設備でふっ素・ほう素を除去する前の値です。排水処理後は狭間川へ排水します。  
 ※3 狭間川上流は排水水が流れない場所での排水水のため、測定値は狭間川そのものの水の値となります。  
 ※4 掘削土の溶出量は、土壌汚染対策法に定められた基準を参考値として自主管理を行っています。測定結果の評価については、参考値と比較し参考値を超えないことを確認しています。  
 ※5 掘削土の測定は、検定（測定）用の水溶液の中に掘削土を入れて溶け出した物質の量を測定します。この水の中に溶け出した物質の量を溶出量とします。  
 ※6 空間放射線線量率は、花木の森散策路の空間放射線線量と比較するため、周辺地域の空間放射線線量率（機構が瑞浪・土岐市内の12地点で測定）を参考値としています。また、測定結果の評価については、周辺地域の空間放射線線量率と比較し、その最大値を超えないことを確認しています。  
 ※7 「検出されないこと」とは、測定項目ごとに定められた検定（測定）方法で測定した結果が当該検定方法の定量限界を下回ることを表します。  
 ※8 NDとは測定値が検出できないほど微量か、またはゼロであることを表します。測定結果のカッコ内の数値は検出限界値を表します。

【単位：mg/L（水素イオン濃度はpH）】

※1 参考値	※2 立坑の湧水	※3 狭間川上流	※4 参考値	※5掘削土の 溶出量（主立坑）	※6掘削土の 溶出量（換気立坑）
—	8.7	7.5			
		1			
0.01以下	0.001未満	0.001未満	0.01以下		
検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	ND(0.1未満)※8	検出されないこと※7		
0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.01以下		
0.05以下	0.04未満	0.04未満	0.05以下		
0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.01以下		
0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005以下		
検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8	検出されないこと※7		
0.03以下	0.002未満	0.002未満	0.03以下		
0.01以下	0.0005未満	0.0005未満	0.01以下		
0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下		
0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.02以下		
0.004以下	0.0004未満	0.0004未満	0.004以下		
1以下	0.0005未満	0.0005未満	1以下		
0.006以下	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下		
0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.02以下		
0.04以下	0.004未満	0.004未満	0.04以下		
0.002以下	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下		
0.006以下	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下		
0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下		
0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.02以下		
0.01以下	0.001未満	0.001未満	0.01以下		
0.01以下	0.002未満	0.002未満	0.01以下		
10以下	0.11	0.40			
0.8以下	7.4	0.1未満	0.8以下		
1以下	1.2	0.02未満	1以下		
—	240				
花木の森散策路における 空間放射線線量率		測定中 周辺地域の空間放射線線量率と同等	測定結果（3月26日～6月末日）※6 3ヶ月の集積空間放射線線量から算出		

主立坑の掘削作業を行っていないため掘削土の測定はありません  
換気立坑の掘削作業を行っていないため掘削土の測定はありません

## 【花木の森散策路における空間放射線線量率】

（平成26年3月分の追加報告）

参考値	※6	測定結果
0.07～0.11 μSv/h		0.08 μSv/h
周辺地域の空間放射線線量率と同等		3ヶ月の集積空間放射線線量から算出
測定期間：平成25年12月12日 ～平成26年3月26日		測定期間：平成25年12月12日 ～平成26年3月26日

## 排水水等の塩化物イオン濃度の測定結果(4月)

測定場所	測定項目	塩化物イオン濃度	【採取日：週2回】 （単位：mg/L）
狭間川上流		1.6～2.3	
立坑の湧水		240～290	
工事排水水		260～270	
明世小学校前取水口		33～100	

◆ 塩化物イオンについては、「排水基準」や「環境基準」などの法的な規制はありませんが、濃度の高い水を稲作に長期間使用した場合には、稲の発育に影響が出るという研究事例があります。千葉県農業試験場の論文・文献などでは、稲は塩化物イオン濃度が500mg/L以下の水を使用していれば、被害が発生する可能性が少ないことから、「安全基準」として300～500mg/Lが記されています。

研究所からの排水水等には天然由来の塩化物イオンが含まれています。狭間川の下流域においては、河川水を稲作に利用していることから、上記の「安全基準」にもとづき、明世小前取水口における河川水濃度として月平均300mg/L以下を目安に管理しています。なお、月平均300mg/Lを超える、又は超えると予想される場合には直ちに耕作の方々にお知らせします。また、これが長期間に及ぶと予想される場合は、500mg/Lを超える前までに「専用設備」による処理などの必要な対策を講じます。